

文部科学省 平成26年度課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革
—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

自己評価委員会 平成26年度報告書

委員名簿

事業実施責任者：窪木拓男（岡山大学歯学部 学部長）

内部評価委員：大原直也（岡山大学歯学部 副学部長）

森田 学（岡山大学歯学部 副学部長）

飯田征二（岡山大学病院 歯科系代表副病院長）

宮脇卓也（岡山大学病院 副病院長，臨床実習実施部会長）

浅海淳一（岡山大学医歯薬学総合研究科 副研究科長）

鳥井康弘（岡山大学病院 卒後研修センター歯科部門長）

江草正彦（岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科センター長）

曾我賢彦（岡山大学病院 医療支援歯科治療部副部長）

I. 事業の概要・目的

実績のある国立大学歯学部と医学部を擁する私立大学歯学部，特色ある医学部歯科口腔外科が協力して，各大学の医療系学部の協力のもと，縦割りを排した新しい次元の医科歯科連携教育や在宅歯科医療学を構築，それを全国レベルで均てん化する．加えて，東京大学 死生学・応用倫理センター，高齢社会総合研究機構の協力のもと死生学や地域包括ケアに関する教育を導入する．また，東京都健康長寿医療センター，国立長寿医療研究センターの協力を得て，認知症等に対する最新の知識と歯科的対応を系統立てて学べる様にする．その結果，適切な死生観に基づき，患者の病床，介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する．また，口腔から全身健康に寄与でき，急性期，回復期，維持期，在宅介護現場に対応できる歯科医を育てる．さらには，高齢者の「食」を基盤とした健康増進，介護予防，虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する．

II. 本事業終了後の達成目標（申請時）

口腔から全身健康に寄与できる歯科医師，及び，急性期，回復期，維持期，栄

養サポートチーム (NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。また, 適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには, 高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。

そのために以下の具体的方策を掲げた。

1. 申請大学と連携大学や協力組織をまとめた歯学教育改革コンソーシアムを設立し, 教員FD, 学生交流, 相互チェック体制を整え, 歯学教育改革の高度化と均てん化を図る。
2. 岡山大学, 連携大学, 協力組織が協力して, 以下の医療支援歯学教育コースワークを順次開始, 連携大学の教員FDや学生交流に解放, 提供する。
 - ①生活習慣病予防と歯科, 急性期歯科医療, 在宅介護歯科医療に関する講義シリーズ
 - ②要介護高齢者を模したシミュレータ演習や老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習
 - ③大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習
 - ④臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習
3. 各連携大学に, 特徴ある有病者・高齢者・在宅介護・災害対応に関する医療支援歯学教育プログラムを設置, 相互利用を行う。
4. 各連携大学の学部教育に, 同様な医療支援歯学教育コースワークを組み入れる努力をする。
5. 各連携大学の卒後臨床研修制度に, 急性期, 回復期, 維持期, 在宅介護現場をサポートする多職種連携医療に対応したコースワークを設置する。
6. 一部の連携大学の大学院に, 高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した疫学研究の推進を可能とする大学院組織を作る。

Ⅲ. 平成26年度の達成目標とそれに対する実績・具体的な成果

事業経費交付申請時に文部科学省に工程表として提出した平成26年度の達成目標と, それに対する実績・具体的な成果を以下に示す。

1. インプット・プロセス
 - 1) 定量的なもの

①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習開始（岡山大学での試行）：5年次56名

本事業申請準備の一環として、平成26年4月27日（日）に、岡山大学で在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習の開始を記念したキックオフシンポジウムを開催した（資料2）。本シンポジウムでは、学内だけでなく他大学や関連機関からを含めて、総計140名の参加者があった。「在宅・訪問歯科診療教育担当臨床講師」の称号を、学外のエキスパート歯科医（14名）に与え、在宅・訪問歯科診療の現場教育に当たらせた。このために、岡山県歯科医師会の強いバックアップを得た。一方、教育に参加することが初めての臨床講師が多数含まれていたため、連携教育会議と本シンポジウムをFDに位置づけた。臨床講師を利用した在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習は、必須化初年度でもあり、各学生1施設を義務づけた。臨床講師からの学生評価、学生からの実習評価を行い、ブラッシュアップに努めた。

②老人介護施設を用いたPBL演習の実施（岡山大学での試行）：4年次53名

平成26年6月4日より、岡山大学歯学部4年次生の第2クォーターを利用して、4年次学生全員と指導教員が老人介護施設に訪問し、学生に介護現場の課題を抽出させ、PBL演習を試行した（資料3）。

③高度医療支援・周術期口腔機能管理臨床実習を開始（岡山大学）：5年次56名

申請時資料（資料4）に示す「医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」の試行を開始した。5年次生56名について2名1組で28クールの実習を予定し、本報告書作成時点でほぼ半数の学生が受講した。当初、教員2名の体制で試行を開始したが、将来的に他大学からも受け入れを始めることから、担当できる教員および補助スタッフを増やすこととした。本採択課題の特任助教2名も担当できるように、また実際の臨床実習の場で臨床に関わる医員等にも教員の教育補助ができるように、本コースワーク中の「外来化学療法室チーム医療同行実習（3時間）」について資料5の「教員用実習実施要綱」を作成し、教員と補助スタッフで内容の検討・ブラッシュアップとそれを用いた実習を行っている。現在「集中治療室チーム医療同行実習（3時間）」、「緩和ケア回診同行実習（3時間）」（これについては本採択課題の特任助教とは別に平成27年3月に岡山大学歯学部執

行部直属の歯学教育・国際交流推進センター付で採用した助教も関わらせ、厚い教育体制を構築する方針とした。)について同様に「教員用実習実施要綱」の作成を開始した。

④歯学教育・国際交流推進センター，及び医療教育統合開発センター 歯科医学教育改革部門設置（岡山大学）

⑤担当特任助教2名と非常勤職員雇用

本プロジェクトに関係する新しい歯学教育ニーズや、歯学部、医歯薬学総合研究科歯学系の国際交流を推進するために歯学教育・国際交流推進センターを歯学部執行部の下に設置した。

さらに、歯学部を越えた学際的連携を推進するため、岡山大学の直轄組織である医療教育統合開発センター内に、本プロジェクトに直結した歯学教育改革部門を設置し、担当特任助教2名と非常勤職員を配置した（図1）。

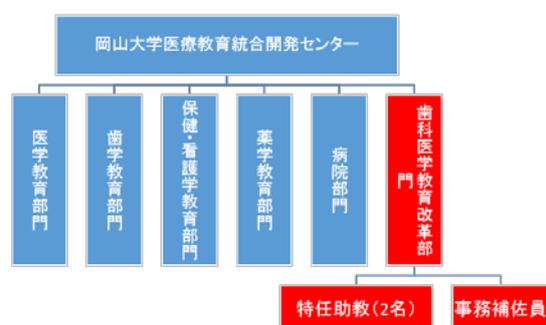


図1. 岡山大学医療教育統合開発センター 歯学教育改革部門の位置づけ

2) 定性的なもの

①歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム開催

平成26年9月26, 27日に歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウムを岡山大学にて開催した（資料6, 7）。本シンポジウムの学内外からの参加者は120名であり（学内74名，学外46名），協力施設および連携大学から講師を招聘し，講演をお願いした。両日とも活発な意見交換が行われ，盛会裏に終了した。

②歯学教育改革コンソーシアム第1回事業推進委員会を開催

平成26年9月27日（土）岡山大学歯学部棟2階第一会議室にて歯学教育改革コンソーシアム第1回事業推進委員会を開催し，本事業推進に向けた意見交換が行われた（資料8）。

③ホームページの開設

本プログラム遂行にあたって、岡山大学オープンコースウェアホームページを開設した (<https://posgra.dent.okayama-u.ac.jp/ocw/index.php>). 新しいトピックスや講演映像の更新を随時行っている (図 2).



図 2. 岡山大学オープンコースウェアホームページ (<https://posgra.dent.okayama-u.ac.jp/ocw/index.php>)

④各連携大学の特徴あるプログラムの登録，試行

各連携大学の特徴あるプログラムを資料 1 の申請書のように登録した. 本年度は資料 9 の連携大学報告書のようにプログラムを試行, 準備を行った.

⑤連携校間や協力施設への教員FDとしての交流開始

平成 27 年 2 月, 鹿児島大学から長崎大学へ教授 1 名, 助教 1 名が, 医療過疎地域における実習方式についての情報収集と意見交換を行うため, 視察を行った. また, 平成 27 年 3 月, 鹿児島大学から北海道大学へ教授 2 名が, 北海道大学が開講する高齢者歯科学とそれに伴う院外実習の内容について視察を行った. 岡山大学から昭和大学へ特任助教 2 名を派遣し, 平成 27 年 3 月 19 日に「シミュレータを用いた要介護患者に対する歯科医学教育」と題して昭和大学にて講演会を行った (資料 10, 11).

⑥教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査, 基盤研究開始

大阪大学では, 老年学研究会が中心となり, 都市部と農村部において, 70 歳, 80 歳, 90 歳の高齢者を対象にコホート研究を行っている. 歯学のみなら

ず、医学、人間科学の各研究科、地域の行政からの参加があり、高齢者医療と研究に必要な医療人や研究者との交流から、異分野連携に貢献する資質を涵養することが期待できるプログラムが施行されている。論文発表について、一例を示す(資料12)。

⑦岡山大学でキックオフシンポジウム、事業推進委員会(学生交流のための単位互換制度のための準備)、第1回外部評価委員会開催

平成27年2月13日(金)岡山大学歯学部棟2階第一会議室にて第2回事業推進委員会を開催し、本事業の進行状況の確認、及び今後の計画等について報告、意見交換がなされた(資料13)。また、13日(金)、14日(土)キックオフシンポジウムを開催し(資料14、15)、本シンポジウムの参加者は199名であり、協力施設および連携大学から講師を招聘し、講演をお願いした。両日とも活発な意見交換が行われ、盛会裏に終了した。

⑧歯学教育改革コンソーシアムの電子コンテンツ作成システム(岡山大学)、ならびに視聴システム(岡山大学)を整備

電子コンテンツ作成システム(3eRecIII)を岡山大学に配備した(図3)。このシステムを用いて、歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会での講演の映像収録を行った。その映像は岡山大学オープンコースウェアホームページ(<https://posgra.dent.okayama-u.ac.jp/ocw/index.php>)より視聴可能である。



図3. 電子コンテンツ作成システム(3eRecIII)

2. アウトプット

1) 定量的なもの

①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習試行(岡山大学:49名)

岡山大学歯学部において、15名の学外臨床講師を任命し、6年次生（計49名）を対象として、在宅介護・訪問診療参加型学外実習を実施した。

②老人介護施設を用いたPBL演習試行（岡山大学：53名）

岡山大学歯学部5年次生（56名）を対象とした要介護高齢者を模したシミュレータ演習、および4年次生（53名）を対象とした老人介護施設を用いたPBL演習を行った。

③高度医療支援・周術期口腔機能管理臨床実習試行（岡山大学：77名）

岡山大学歯学部5年次生（56名中現在28名まで実施）および6年次生（49名）を対象として、岡山大学病院周術期管理センターを利用した、高度医療支援・周術期口腔機能管理実習を実施した。

2) 定性的なもの

①閲覧可能な授業シリーズの蓄積

平成26年9月26、27日に開催したコンソーシアム設立記念講演会・シンポジウムの講演の映像はOCWのHPより閲覧可能であり、平成27年2月13、14日に開催したキックオフシンポジウムについても、閲覧可能となるよう更新予定である。コンテンツ作成システムの導入を順次行っており、今後、授業シリーズの蓄積を継続していく。

②連携校間や協力施設へのFD教員派遣、学生交流

平成27年2月、鹿児島大学から長崎大学へ教授1名、助教1名が、離島医療実習について視察を行った。平成27年3月、鹿児島大学から北海道大学へ教授2名が、北海道大学が開講する高齢者歯科学とそれに伴う院外実習の内容について視察を行った。高齢化の進む医療過疎地域における実習方式について、情報収集と意見交換を行うことで、鹿児島大学における派遣型歯科医療実習へのフィードバックを行うことができた。岡山大学から昭和大学へ特任助教2名を派遣し、2015年3月19日に「シミュレータを用いた要介護患者に対する歯科医学教育」と題して昭和大学にて講演会を行った（資料10、11）。シミュレータを用いた教育方法について活発な意見交換が交わされ、今後の運用方法について非常に意義深い示唆が得られた。

また、本事業推進委員である岡山大学教員がオランダ・Academisch Centrum Tandheelkunde Amsterdam (ACTA)へ、同様の課題を有する諸外国との情報共有および共同事業の展開を目的に視察・訪問を行った。これにより、情報共有・協力の有用性が確認され、今後の教員・学部学生交流に向けた第一歩を踏み出した。(資料16)

平成27年3月、九州大学石川邦夫教授がタイ・Kasetsart Universityへ視察を行い、海外大学との連携強化を行うことができた。

③疫学研究業績，基盤研究業績

前述のように、大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の高齢者を対象にコホート研究を行っている。

また、九州大学では福岡市に隣接した糟屋郡久山町の住民を対象に疫学調査を行っている。関連した論文発表については、資料の通りである(資料12, 17)。

④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加

平成27年3月16日-18日に岡山大学特任助教2名が学生交流のための事前視察として長崎大学離島実習、及び長崎大学病院・歯学部の視察を行った(資料18)。長崎大学担当教員と実習受け入れ等について意見交換を行った。

3. 本事業に関連する講演・報道等実績

- 1) 窪木拓男：新たな歯学教育-超高齢社会に対応。岡山大学主幹校に全国11大学連携。山陽新聞朝刊 第二社会面掲載，平成26年8月19日。(資料19)
- 2) 川尻秀一：「がん治療における医科と歯科の連携について」。がんプロ市民公開講座「がん治療と口腔ケア～口腔ケアはがん治療の入口です～，香林坊ラモーダ，石川，平成26年9月23日。
- 3) 岸本裕充：「がん治療・災害時の口腔ケア・オーラルマネジメント」。第5回愛媛県歯科医学大会，松山市総合コミュニティーセンター，愛媛，平成26年11月8日。
- 4) 窪木拓男：健康長寿宣言-高齢者の「食」を基盤とした健康増進，介護予防，虚弱予防に向けて-。いい歯の日特別企画第1回「歯と口の健康」を考える集い，岡山大学鹿田地区J Hall，岡山，平成27年11月8日。

5) Takuo KUBOKI: Educational break-through in dentistry by a multidisciplinary collaboration with medicine and pharmacy in an aged society. International Scientific Conference - The 35th Foundation and Development Anniversary of Haiphong University of Medicine and Pharmacy-. Haiphong, Vietnam, 2014.11.14.

3) 窪木拓男：文科省事業の基幹校を担う，周術期から在宅まで実習，海外で働く姿をイメージ。日本歯科新聞「学び舎探訪」掲載。平成27年1月13日，20日，27日。（資料20）

4) 曾我賢彦：「見落とさないで，口の中ってすごく大切」。岡山大学病院第67回緩和ケア勉強会，岡山大学病院，岡山，平成27年1月15日。

5) 窪木拓男：「超高齢社会に対応する歯学教育を如何に構築するか」。日本歯学系学会協議会，東京，平成27年2月7日。

6) 窪木拓男：「これからの歯学・歯科医療における人材育成」，公開シンポジウム，昭和大学旗の台キャンパス16号館2階講義室，東京，平成27年2月7日。

7) 窪木拓男：健康長寿宣言-高齢者の「食」を基盤とした健康増進，介護予防，虚弱予防-。岡山大学歯学部同窓会兵庫県支部特別講演会，兵庫県歯科医師会館，神戸市三宮，平成27年2月11日。

IV. 平成26年度の自己評価Ⅲの平成26年度の達成目標とそれに対する実績・具体的な成果から、以下の自己評価に至った。

自己評価委員会における本事業評価

評価項目	5段階評価										
	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	良い
事業計画の妥当性	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	良い
計画に沿った成果を得られているか	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	良い
本プロジェクトに関連した業績は十分か	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	良い
事業費の使途に問題はないか	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	良い

総評

本事業は平成26年度に開始されたばかりであるが、多大な実績を挙げることができた。一方、今年度の実績は、これまでの歯科の領域内における教育実績が多くを占めている。したがって、来年度はこの実績に加えて、医科歯科連携をさらに推進するとともに、各連携大学や協力施設の相互協力を不退転の決意で推進すべきと考えている。